

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングや毎月の職員会議で法人理念と施設目標を再確認し共有している。施設目標は掲示して朝礼で唱和し、常に意識して取り組むようにしている。また異動時はオリエンテーションを行い共有している	法人理念についてはコンセプトと合わせ名札の裏にプリントされており職員間で共有している。全職員で決めた本年度の施設目標を事務所に掲示し、朝礼の場で唱和し支援に取り組んでいる。また、「きづき」の出来る職員を育てるべく個別指導も行っている。利用者、家族に対しては施設目標に合わせた支援の取り組みについて利用契約時に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり定期的に介護相談専門員や傾聴ボランティア等の来訪がある。また施設周辺の散策を行う中で馴染みの関係が出来るよう努めている	区の一員として区費を納め活動している。区の運動会には敬老席を準備していただき競技にも参加し楽しんでいる。また、育成会の子供達の花笠踊りの来訪も毎年あり交流を図っている。更に年4回の諏訪湖清掃には利用者、職員が毎年引き続き参加し地域との繋がりを深め、防災についても区長と話し合いを進めている。施設の行事には傾聴や音楽等、多くのボランティアの来訪があり、交流の場を持ち協力を頂いている。開設から8年目を迎え地域とのつき合いも広がり地域に密着したホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在諏訪湖アダプトプログラム(諏訪湖の美化活動)を年4回の予定で実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組み状況や外部評価結果を報告し十分な意見交換を行っている。その内容は職員会議や会議録で周知し今後のサービス向上に活かしている	利用者、家族代表、区長、民生委員、介護相談員、広域連合、ホーム関係者の出席で定期的開催している。出席者の紹介、認知症ケアについて、日常の様子紹介、日々の取り組みについて活発な意見交換が行われケアの向上に役立っている。また、区長、民生委員は会議終了後利用者と懇談されている。会議録は回覧で全職員に回され必要事項については全体会議で話し合い、日頃の支援に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時、運営推進会議等の機会に市の担当者との連携を取っている。介護相談専門員の定期的な来訪により利用者様の暮らしぶりや相談にのっている。また相談内容は専用のノートに記載し把握している	必要事項は市介護福祉課に相談している。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行い、立ち会われる家族もいる。月2回介護相談員の来訪があり、利用者も話をすることを楽しみにしている。市のグループホーム連絡協議会が定期的に開催され、市の担当者の出席もあり情報交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人や施設内で研修を行っている。自由に外へ出ることが出来る環境の大切さは理解しているが職員配置、周辺環境を考慮し入居者の安全確保を考慮し、ご家族の了解を得て玄関の鍵はかけている。ホールの窓や希望する利用者様の居室窓は開放し自由にベランダへ出られるよう配慮している。また買い物や散歩の要望時は外出している	法人として、また、ホームとして研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全確保のため家族に了解の上玄関は施錠されているがホームの建物を一周できるベランダは自由に出入りができ、花を育てたり食後ベランダに出て寛がれる利用者を垣間見ることができた。「わがままに」生活していただくことをコンセプトとし、利用者の希望に沿った生活ができるよう支援に取り組んでいる。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的施設内研修を行い高齢者虐待について理解を深めている。常に尊重する気持ちを持って関わることに努め、日頃の言葉遣いやケアが適切であるか確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加、成年後見制度や日常生活自立支援事業のチラシなどを用いて学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は十分な説明を行い、ご家族の不安や疑問点を確認しながら同意を得ている。また改定時は文書等でも通知し不明な点は問い合わせを頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは遠慮なく話せる関係作りに努めている。ご家族の面会時には状況の報告をし、ご家族の想いを聴く機会としている。運営推進会議では意見や要望を自由に発言して頂き運営に活かしている。また意見箱を設置している	家族の来訪はほぼ毎日の方から週1回ぐらいの方、遠方の家族も行事の際にと、来訪については積極的であることが感じられる。年1回行われる家族会をはじめ、春、秋のお出掛け会など、年5回、家族が集まる機会があり、その都度20名以上の参加者で賑やかに開催されている。誕生日会には家族出席の上、好きな料理をお出しし一緒にお祝いしている。毎月発行される「風薫新聞」を利用し一人ひとりの1ヶ月の活動状況を写真と共に纏めた手紙を家族に出し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議等で意見や提案を聞き問題点の明確化や具体的な改善策を話し合っている	月1回の全体会議、朝礼や申し送りなど、話し合う機会を多く設け、利用者への「気づき」をケアの向上に繋げている。業務改善にも積極的に取り組み、利用者の状況に応じて何がベストかを日々汲み上げ業務の効率化とベストなケアに向けて取り組んでいる。管理者による個人面談が年2回行われ、様々な相談ごとからモチベーションアップへと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し年2回の自己評価を行っている。自己評価表にアドバイス等を記載し、やりがいをもち働けるよう努めている。返却時は個人面談を行い悩み等を聞く機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に可能な限り多くの職員が参加できるよう機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の法人内会議で他事業所と情報交換をし、事例検討を通じて質の向上に取り組んでいる。また年に3回ほど市内のグループホーム管理者が集まり情報交換や地域貢献についての意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にできるだけご家族とご本人に在所して頂き施設内を見たり、ご本人が困っている事等をお聞きしている。事前面談に身体面や生活面の情報を事前収集し入居後はご本人の訴えを受け止め信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設内を見て頂くとともに、ご家族の様々な想いに共感している。また入居後の不安や要望などを聴き、その対応についての話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いをよく聴き、必要としている支援を見極めるよう努めている。当施設ではどのような支援ができるのかを他のサービス利用も含めて考え柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ立場、同じ目線に立ち喜びや悲しみ、楽しみ等を共感している。炊事や掃除など一緒にいり支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活や身体状況等を毎月のお便りで報告するとともに面会時にもお伝えしている。また施設内外の行事にお誘いしご家族が関わる場面を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊に制限が無く、来訪しやすい雰囲気作りに努め馴染みの関係が継続されるようにしている。電話の取り次ぎも制限がなく遠方の方との関係も大切にしている	友人、近所の方、会社の部下だった方の来訪があり、家族の了解を得て居室にてゆっくり寛いでいただいている。手紙や電話がかかってくる利用者もおり、職員が関係継続のお手伝いをしている。年賀状を出される利用者もおり、家族と一緒に作成している。ホームに入居してから利用者同士仲が良くなり、話をしたり居室を行き来している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話をしている時間を大切にするとともに、その環境作りを行っている。また利用者同士の関わりが持て、人間関係が上手にいくよう声掛けをしている		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までの生活環境や支援が継続されるよう他事業所、ご家族に情報を提供し連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中での言葉や表情、行動等から思いや希望を汲み取るようにしている。意向の確認が困難な方はご家族などから情報を得て本人の立場に立ちカンファレンス等行っている	殆どの利用者が何らかの意思表示が出来る。家族からお聞きした過去からの生活歴を参考にしながら「わがままな生活」が送れるように発した言葉や行動を否定せずに希望を引き出すため二者択一での声掛け等を行っている。発した言葉については申し送りノートに記録として残り全職員で共有し、利用者との良好な人間関係を築き希望に沿った支援に取り組めるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者様、ご家族から、これまでの生活について教えていただいている。また昔の写真をお借りし、一緒に見ながら生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。他の事業所からも利用時の様子を教えて頂き得た情報はミーティング等を通じ共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまで生活してきたリズムを大切に一人ひとりの理解と、出来る事や楽しんでいる事等の把握に努め記録やミーティングで共有するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人の意見をお聞きしたり、ご家族が面会に見えた際に現状をお伝えし意向を確認し相談しながらケアに反映させている。また主治医とも話し合い計画を作成している	職員は1~2名の利用者を担当している。全体会議でもケア会議を行い全員で意見を出し合い、家族の希望も取り入れ、また、主治医との連携も取りながら基本的に3ヶ月に1回見直しを行っている。利用者に変化が見られた時には即時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に身体状況、本人の言葉や様子を記入し勤務開始前に業務日誌も含め確認する事を義務としている。また記録をもとに評価し介護計画の見直しを行い朝礼や職員会議で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望時は買い物や外出等個別の支援を行っている。ご家族との外出、外泊や当施設への宿泊、食事の提供等柔軟なサービスを行っている		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に広域連合、市役所、介護相談専門員、民生委員、ご家族、利用者様と情報交換を行うとともに施設への理解と協力を頂いている。また定期的なボランティアの訪問や区で行われているコーラスの参加、訪問理美容を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望するかかりつけ医となっている。定期受診はご家族対応であるが緊急時は職員が付き添う等柔軟な対応をとっている。かかりつけ医によっては往診も行っている。夜間を含む急変時の連絡体制をかかりつけ医と相談し決めている。また協力歯科医による往診も行われている	かかりつけ医の受診や往診については基本的に家族対応であるが緊急時には職員が付き添っている。本年4月より口腔衛生管理体制加算を取得し協力歯科医の指導を仰ぎながら口腔ケア対策を進めている。また、法人が契約している看護師が月、水、金の週3回来訪し利用者の健康管理を行っている。更に、ホーム協力医と救急時の連携を取ることでも医療体制について万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し対応している他、隣接している事業所の看護師との連携も取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供している。本人、ご家族、医療機関と回復状況の連絡を密にとり早期に退院出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のサービスのありかたについて話し合う機会を作っている。ご本人やご家族様の希望を聞き、かかりつけ医との相談を十分に行い方針を決めるようにしている。また重度化した場合における指針の同意を文書にて頂いている。	利用契約時に法人の重度化に対する指針について説明し、その状況に到った時には本人や家族の希望を聞き、主治医と連携を取りながら進めるようになっている。開設以来未だ看取り経験は無いが、その状況になった時の心構えと職員の役割について終末期研修を行うと共に話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに研修を行っている。また実際に起きた事故の対応確認や計画作成時に急変や事故が予測される場合は全体会議等で話し合い勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日にミニ防災訓練を行っている。6月、11月は隣接の事業所とともに防災訓練を行い消防署の指導も受けている。また5月は法人全体で災害時情報伝達訓練と9月には地震を想定した訓練を行っている	年2回、6月、11月に併設の事業所と共に消防署員の参加も頂き、防災訓練を実施している。利用者も全員参加で消防署員の指導を受けながら全員ホーム外へ出る訓練を行っている。また、初期消火や通報訓練も実施している。毎月ホーム独自に火災や地震を想定したり、通報などのミニ防災訓練を行い、全員の防災意識を高めている。水、食料、介護用品等の備蓄も3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を職員全員が意識し敬意を払っている。ご本人で行う事が困難な時にさりげないケアをし、自己決定が出来るような言葉掛けに心がけている	プライバシー保護について「家族から見てどうだろうか」ということを原点に接するよう心掛けている。呼び方は尊敬の念を込め「〇〇様」とお呼びしている。使ってはいけない言葉を冷蔵庫のドアに貼り、常に意識するようにしている。入室時には声掛けとノックをしているが家族が面会に見え居室にて寛いでいる時には近くに行かないよう心掛けている。年2回プライバシー保護や人権についての研修会を行い利用者の尊厳を護るためのケアに役立てている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の状態に合わせて分かりやすく選びやすい言葉掛けを行っている。意思表示が困難な方は表情や行動からその意思を汲み取り理解するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態や気分によって個別の外出や希望メニューの提供等を行っている。利用者様のペースを大切に気持ち尊重しながらその人らしい生活が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は衣類を選べるよう言葉をかけている。訪問理美容を活用しご本人の要望に沿えるようにしている。またお化粧品や装飾など今まで行ってきた事が継続して行え、おしゃれが楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やその日の天候、利用者様の希望でメニューを決め、食事作り、盛付、片付け等一緒に行っている。職員と利用者様が同じテーブルで会話を楽しみながら食事する時間を大切にしている	食事の摂取については自力の方が三分の二、一部介助、全介助の方がそれぞれ数名ずつという状況で、ほとんどの方が常食である。支援の中で食事の重要性を捉え、色・味・季節を感じる食事作りに力を入れ、利用者と職員が話をしながら楽しい食事が出来るよう取り組んでいる。お手伝いは一人ひとりの力に応じて準備から片付けまで楽しく行っている。季節の行事、誕生日会等では家族も一緒に食事を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスに気をつけ、個別の嗜好や食事形態に合わせてるようにしている。食事量は確認し把握出来ている。水分はこまめに提供し摂取が困難な方はゼリーを召し上がっていただき1日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをして行っている。口腔状態を確認し必要に応じて協力歯科医に往診を依頼している。常に連携を取りながら口腔状態の把握に努めている。また義歯は洗浄剤を使用している		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄のサイクルを把握している。本人の排泄サインを見逃さず自尊心に配慮したケアを心掛けている	自立の方は数名ほどでほとんどの利用者は一部介助という現状であり、自立の方以外はリハビリパンツとパットの併用である。基本的に毎食後、起床後、就寝前の声掛けを行っているが、排泄チェック表を基に一人ひとりの利用者のパターンを把握しトイレへと誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表でサイクルを確認し便秘の方には水分を多く取って頂けるよう促している。また繊維の多い食材や適度な運動を行い自然排便に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間は決まっているが本人の希望を確認して入浴している。その方の今までの習慣に合わせ、楽しんで頂けるよう支援している	基本的に週2回の入浴支援を行っており、希望があれば入浴が出来るようにしている。入浴を拒否する方がいるが無理強いせずお誘いするようにしている。近くの温泉施設に足湯を楽しみに出かけたたり、季節によって菖蒲湯・ゆず湯、みかんや林檎等のお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に沿って休息を促している。また体調や本人の希望に応じて支援している。日中の活動にも気を配っているが、夜間眠れない方とは一緒にお茶を飲んだり、会話をするなど安眠出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬のファイルを作成し目的や副作用、用法等を理解している。処方に変更があった場合は個人記録や業務日誌に記載し申し送り等で把握している。状態変化の観察に努め、その変化は主治医に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅にいた頃の趣味が継続できるように支援している。出来る事、希望する事の中から役割を持ち、張り合いのある生活となるようにしている。また季節の行事や外出等利用者様の意見を取り入れながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ季節を感じて頂けるようにしている。ホームで生活するご利用者の様子をご家族と共有し、本人の希望する場所や馴染みの地へご家族と一緒に出かけている。年間行事として、いちご狩り、秋の行楽にご家族をお誘いし行っている。	ホーム内では何とか自力で歩かれる方が多いが外出時はほとんどの方が車いす対応である。天気の良い日には玄関先、諏訪湖畔端の公園で散歩を楽しんでいる。年間の活動計画の中でお花見・いちご狩り・紅葉狩り等、お弁当を持ちながら家族をお誘いし出掛けしている。また、年間行事として納涼祭、花火大会、敬老会、干し柿作り、クリスマス、七草、節分等、盛り沢山に計画し、家族や地域の人々とふれあう機会を持ち楽しいひと時を過ごしている。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する場合は、ご家族の理解と協力を得て所持している方もいる。買い物へ出かけた際は支払い時に財布を渡しご自分で支払って頂けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたたり取り次いだりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や観葉植物等季節の花を飾り四季を感じて頂けるようにしている。また家庭的な雰囲気ですぐ居心地の良い場所となるよう努めている。常にホール、居室の温度や湿度、明るさに気を配り、過ごしやすい環境に努めている	玄関を入ると左右に二つのユニットがあり広々とした廊下が両ユニットを貫き冬場は利用者が運動を兼ね歩いている。利用者が集うホールは窓が大きく天井も高く開放感がありベランダは自由に出入りができ、また、散歩もできる造りとなっている。壁には本年度の利用者と職員、一人ひとりの目標が掲示されている。広いホールではテレビを見たり会話を楽しむなど思い思いの時間を過ごしている利用者の姿が見られた。ホームの西側には花を楽しめるよう花壇が配置されており多種多様な花が育てられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が、ホール、台所等でそれぞれ居心地の良い場所を知り、その場所で落ち着いて過ごせるようにしている。ホールにソファを置き、気の合った方達でくつろげるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、調度品を自由に持ち込み、以前と変わらない環境作りに努めている。マッサージ器や仏壇を置いたり、絵や写真を飾っている方もいる	掃除が行き届き整理整頓された居室には大きなクローゼットと使い慣れた家具、テーブル、いす、テレビ、仏壇などが持ち込まれ、職員から送られた誕生日のメッセージカードや家族の写真等も壁に飾られ一人ひとりの利用者の生活の場となっている。また、ベランダで花や観葉植物を育て楽しまれている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の、できること、わかることを理解し不安や混乱が生じないよう努めている。また継続していけるよう安全に配慮しながら自立した生活を支援している		